

社会福祉協議会会長賞

堺市立 錦西小学校 六年

桐山 桜

次へのステップ

私は嫌なことがあると毎回思い出してしまった出来事があります。

それは、友達とのけんかのことです。口では許すことができるのに、心ではどうしても許すことができなかつた苦しい出来事です。

ちよつとした意見のちがいから、その子との関係が悪くなりま

した。とてもひどいことを言われたので、とてももやもやして、私の気持ちはぐちやぐちやでした。次の日、学校で会つたときに「ごめん」と謝られました。その子が謝つてきたということもあり、私は思わず「いいよ」と言つて許しました。

でも、口では「いいよ」と言つたものの、心ではどうしても相手を許すことができなくて、もうその事を考えないようにしようと思つても嫌な気持ちは消えませんでした。今振り返つてみると、この時は「相手を許す」というよりも、自分を我慢して「いいよ」と口に出して許していたんだと思います。この時消えなかつた嫌な気持ちは、時間がたつにつれ少しづつ薄くなっていますが、今でも心に残っています。

でも最近では、納得いかないけれど許したということは、自分

が次に進むために必要なものかもしれないと考えられるようになりました。

人を許すことは「自分が次のステップに進むこと」であり、「相手も次のステップに進むこと」だと思います。

なぜならば、許したことによつて自分は次のことに集中できるし、次同じことが起きた時に初めての時よりも気持ちの整理がつきやすくなるからです。そして、相手も許してもらったことによつて「次はしないようにしよう」などの前向きな気持ちになれ、「次に進むこと」ができるからです。

先に行動する、つまり相手を許したら、あとは時間がたつと気持ちは次第に弱くなつていくのだと私はこの経験を通して感じました。「許したくない」という気持ちが完全に消えるわけではないけれど、でも、次へ進むためのものになるとも感じました。実際に、私はその出来事があつてから、次に進むことができ、気持ちの整理がつきやすくなりました。

このように、私は人を許すことは自分も相手も次へ進む

ことだと考えています。

私たちの社会でも、同じことが言えるのではないでしょか。

いろいろな人がいて、毎日いろいろなことが起きます。完全には消えないし忘れられないけれど、一つ一つのことをひきずるのではなく、お互いに「許し」「許される」ことによって、良い方向へと変化していくのだと私は思います。

私の嫌な気持ちも、いつか完全に消えたらいいなと思っています。

